

報告事項ナ

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る第3回検討委員会について

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る第3回検討委員会について、別紙
のとおり報告します。

平成31年3月15日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る第3回検討委員会について

平成31年3月15日（金）

鳥取県幼児教育センター

（小中学校課 幼児教育担当）

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る第3回検討委員会について、開催の概要は以下のとおりです。

1 日 時

平成31年2月18日（月）
午後1時30分から4時まで

2 会 場

中部総合事務所205会議室



～第3回検討委員会～

3 参加者

(1) 委員

- ・幼稚園・認定こども園関係者3名（公私立幼稚園会・こども園長会、私立保育園協会推薦者）
- ・小学校関係者1名（小学校長会推薦者）
- ・保護者代表1名（私立幼稚園PTA推薦者）
- ・家庭教育関係者1名（「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ）
- ・学識経験者2名（鳥取大学教授、鳥取短期大学准教授）
- ・市町村行政担当者2名（鳥取市こども家庭課参事、日野町教育委員会事務局教育課長）

(2) 事務局

- ・教育委員会：足羽教育次長
鳥取県幼児教育センター（小中学校課・各教育局）
教育センター、特別支援教育課、人権教育課、体育保健課
- ・福祉保健部：子育て応援課、子ども発達支援課

4 概 要

○鳥取県幼児教育振興プログラム（案）について 資料1

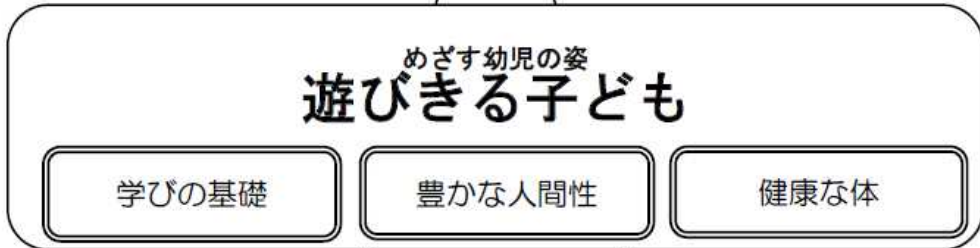
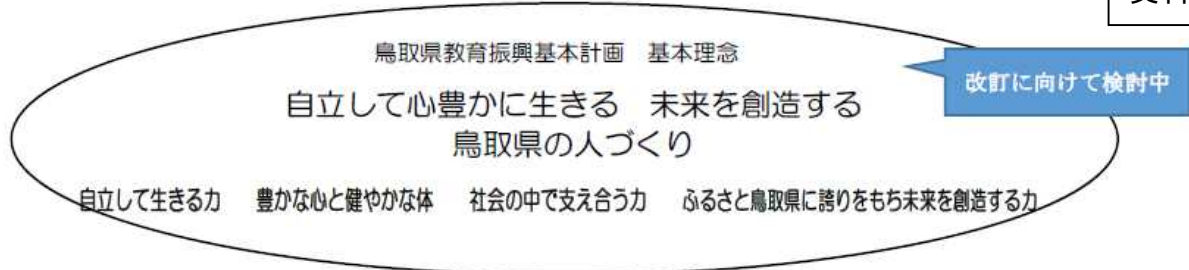
- ・県としての考え方や取組等を反映したプログラム案とするため、内容について検討を行うとともに、家庭教育の現状等について協議を深めることができた。

*意見等の概要については別紙のとおり 資料2

5 今後の予定

委員の意見を参考に、第3回検討委員会のプログラム案を修正し、パブリックコメントを実施する。

《2019年度》	4月下旬	パブリックコメントの実施
	6月中旬	第4回検討委員会
	8月下旬	第5回検討委員会
	10月下旬	鳥取県幼児教育振興プログラム改訂・配布
	12月1日（日）	新プログラムの普及・活用を図る「鳥取県幼児教育フォーラム」の開催



鳥取県幼児教育振興プログラム（平成 31 年度改訂版）
～就学前教育の充実と幼児期から小学校への切れ目のない支援体制の整備・充実～

《推進の柱》

- 1 幼児教育の質の向上
- 2 保育者の資質向上
- 3 小学校教育との連携・接続推進
- 4 子育て・親育ち支援の充実
- 5 地域とともにある幼児教育の推進

《基本方針》

- ・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開
- ・幼児教育における環境の充実
- ・特別支援教育の充実
- ・研修体制の整備
- ・研修内容の充実
- ・連携・交流の体制づくり
- ・つながりを意識した教育・保育内容の充実
- ・「親と子の育ちの場」の充実
- ・子育て支援体制の充実
- ・地域における園のセンター的機能の整備
- ・幼児教育・保育施設と関係組織の連携
- ・地域とともにある園づくりの推進

【幼児】

- ・文字や数字への関心が高い
- ・情報が得やすく知識が豊富
- ・素直で人なつっこい
- ・ものがあふれた中での生活
- ・基本的な生活習慣の自立の遅れ
- ・コミュニケーション能力が未発達
- ・人とつながることが苦手
- ・小学校生活への不適應
- ・外遊びや直接体験の不足
- ・体の使い方が未熟で、体力・運動能力が低い
- ・自制心や規範意識の不足
- ・遊びこむ（遊びに集中・遊びに広がり・試行錯誤のある遊び等）体験不足

【保護者】

- ・子育てへの関心の二極化
- ・我が子へ愛情をかけている
- ・子育てよりも自分のことを優先
- ・公的な場でのマナーなど規範意識の低下
- ・しつけ、子育てを園に任せがち
- ・コミュニケーション能力・人とつながる力の弱さ
- ・子育ての孤立化・子育て不安や情緒不安
- ・様々な情報から正しい情報を選択する力の弱さ
- ・子どもとの愛着関係の形成に課題

【地域・社会】

- ・少子・高齢化
- ・核家族化等家族形態の変化
- ・身近な自然や遊び場の減少
- ・地域とのつながりの希薄化
- ・子育て支援体制の整備による活用
- ・育児情報の氾濫
- ・AI（人工知能）の進化
- ・子ども同士で遊び、葛藤しながら成長する機会の減少

【教職員等】

- ・「遊びきる子ども」を育む保育実践への意識向上及び園における取組の増加
- ・家庭や地域社会の教育力の低下に対応するための資質・専門性を高める必要
- ・教員等自身の多様な体験の不足
- ・保護者との良好な関係を構築する力が未熟
- ・保育を構想し実践する能力が不足する傾向
- ・多様な発達や家庭環境に対応する力が必要

鳥取県の特徴

- ・女性就業率が高い
- ・保育所入所児の割合が高い
- ・長期間・長時間保育の子どもが多い

背景

【鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）の全体像】

本県がめざす幼児の姿「遊びきる子ども」の育成に向けて、下記の5つの推進の柱に基づき、基本方針と目標を設定しました。県と県内全ての幼稚園・認定こども園等、設置者が各々取り組むことを具体的に示しています。

めざす幼児の姿 遊びきる子ども



質の高い教育・保育

1 幼児教育の質の向上

- 基本方針（1）幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開
- 目標① 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容の理解推進
 - 目標② 教育・保育内容の充実
 - 目標③ 学校評価・自己評価の活用推進
- 基本方針（2）幼児教育における環境の充実
- 目標① 幼児教育における環境の改善・整備
- 基本方針（3）特別支援教育の充実
- 目標① 支援体制の整備・充実
 - 目標② 個別の（教育）支援計画等の作成・活用及び関係機関との連携

専門性の向上

2 保育者の資質向上

- 基本方針（1）研修体制の整備
- 目標① 体系的な研修計画の整備
 - 目標② 計画的・組織的な研修の推進
- 基本方針（2）研修内容の充実
- 目標① 専門性の向上のための研修の充実
 - 目標② 幼保多様化に向けた研修の充実

保育・教育の相互理解

3 小学校教育との連携・接続推進

- 基本方針（1）連携・交流の体制づくり
- 目標① 幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等の連携・接続の体制整備・充実 ～組織をつなぐ～
 - 目標② 幼稚園・認定こども園・保育所・小学校教職員等の連携・交流の推進 ～人をつなぐ～
- 基本方針（2）つながりを意識した教育・保育内容の充実
- 目標① 接続カリキュラムの作成 ～教育をつなぐ～
 - 目標② 地域における連携体制の整備 ～組織をつなぐ～

家庭教育を支える

4 子育て・親育ち支援の充実

- 基本方針（1）「親と子の育ちの場」の充実
- 目標① 多様な場を活用した交流機会の提供
 - 目標② 保護者の育ちを応援する学びの機会の充実
 - 目標③ 親と子の生活習慣づくりの支援
- 基本方針（2）子育て支援体制の充実
- 目標① 関係機関と連携した子育て支援体制の充実
 - 目標② 家庭や地域における子育て支援体制の充実
- 基本方針（3）地域における園のセンター的機能の整備
- 目標① 幼稚園・認定こども園・保育所におけるセンター的機能の充実

関係機関がつながる

5 地域とともにある幼児教育の推進

- 基本方針（1）幼児教育・保育施設と関係組織の連携
- 目標① 連携体制の整備
 - 目標② 市町村における幼児教育の充実に向けた政策プログラムの策定
 - 目標③ 多様な幼児教育・保育施設の連携推進
- 基本方針（2）地域とともにある園づくりの推進
- 目標① 地域資源の活用
 - 目標② 子どもを支える地域づくり

【キーワード】

「遊びきる子ども」の育成に向けて5つの柱にはキーワードを設けています。例えば、推進の柱1では、「質の高い教育・保育」を通して、「遊びきる子ども」を育てます。

これからの幼児教育の指針



第 3 回「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る検討委員会（協議）まとめ

日 時 平成 3 1 年 2 月 1 8 日（月）

会 場 中部総合事務所 2 0 5 会議室

(1) 鳥取県幼児教育振興プログラム（案）及び参考事例について

章	区分	委員意見
	全体	○参考資料は、効果的なものとなるように選定や工夫を行うこと。 また、何をどう見取ってほしいのかを書くべきである。
第 I 章	改訂の趣旨	○「鳥取県教育振興基本計画」とのつながりについて記載すること。
第 II 章	鳥取県の現状	○「人口減少」の原因が「自己肯定感」が低いと読める。また、「ふるさと教育」を充実すれば解決するということでもない。書きぶりを修正すること。
第 III 章 めざす 子どもの姿	1 遊びきる子ども	○「主体的な遊びを中心とした乳幼児期にふさわしい生活」の記述に、「年齢別の発達過程を丁寧に見ていくこと、遊びきる姿を丁寧に見ていくことが大切」と書き加えること。
	3 育ちと学びの 連続性	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、到達目標ではない。心身の発達に応じて、指導を行う際に考慮すべきものであることやどう小学校に引き継ぐかを注意的に書く方がよい。
第 IV 章 推進の柱と 基本方針 及び目標	推進の柱 1 幼児教育の質の向 上	○認められた安心感や自己肯定感は、「褒めること」だけでもてるものではない。失敗した中で状態を受け止め、共感を得ながら、認められたり褒められたりする体験が大切である。就学前の自己肯定感の説明ができるとよい。 →子どもが自己表現している姿を前向きに捉えて表現したい。 就学後・就学前の保育者・教職員が子どもに共感し、どんな認め方をするか検討したい。 ○海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児にどんな支援ができるかを記入した方がわかりやすい。子どもだけでなく、親への支援もこれからの課題ではないか。 →・相談センター（東・中・西部）の設置を紹介する。 ・幼稚園・認定こども園・保育所等の場合は施策が十分に整っていない現状がある。国も具体的な施策は出していない。 ・県教育委員会では保護者対応に向けた「学校生活ガイドブック」を 8 か国の言語で作成している。（ベトナム語版作成中）就学前版も検討していきたい。 ・小中学校においては、日本語指導支援員をおき、学習支援を実施している。 ○「学校生活ガイドブック」を基本に学校の状況に合わせて作り替えて活用している。園では、文書連絡を英語にして持ち帰らせた

		<p>こともある。支援員制度など、現場で個別対応できない時は、協力をお願いしたい。</p> <p>→市町村の役割でもあるため、働きかけていきたい。</p>
	<p>推進の柱2 保育者の資質向上</p>	<p>○保育者は、新規採用時・10年経験時などの節目研修以外に研修を受けていないのか。</p> <p>→新規採用者研修、10年経験者研修は法定研修。これ以外にも多くの研修を実施。分かりやすい研修一覧表を資料とする。</p> <p>○「教職員」という用語について、保育士、保育教諭等具体的に示した方がいいのではないか。園には看護師、栄養士等の職員もいるので「保育者等」としてはどうか。</p> <p>→研修に参加するのは保育者以外の職員も含まれるため、表現については整理する。</p> <p>○免許状の上進についてデータを載せる予定とあるが、県として認定講習など何かしらの対応を考えているか。</p> <p>→上進希望調査を実施中。調査結果から対応を検討する予定。それを踏まえ、プログラムに載せる資料を整理する。</p>
	<p>推進の柱3 小学校教育との連携・接続推進</p>	<p>○教育課程・全体的な計画とあるが、認定こども園が使用する要領では教育及び保育と示してあるので保育という文言を加えた方がよいのではないか。</p> <p>→保育所保育指針では、全体的な計画の中に教育及び保育が含まれている。</p>
	<p>推進の柱4 子育て・親育ち支援の充実</p>	<p>○保護者に提供する学びについて、子育ての困り感の解消に役立つ幅広い内容を提供していく必要がある。(例) 就学援助、虐待、発達に関することなど</p> <p>→研修内容や情報提供の内容として例示する。</p> <p>○日本語支援の必要な保護者へ、園では、英語の堪能な保護者やボランティアの協力を得るなどして対応している。県としての取組も示した方がよい。</p>
	<p>推進の柱5 地域とともにある幼児教育の推進</p>	<p>○これからの時代には、地域の力が期待される。地域での人間関係・ネットワークづくりが重要である。</p>
<p>第V章 鳥取県幼児教育センターの役割と活用</p>		<p>*特になし</p>

(2) 保護者支援の現状と今後の取組について

《関係機関との連携》

- ・子どもの成長・生命にかかわる現状の家庭への関わりについて考えていくことが必要であ

る。難しい現状の中で、保育者だけに対応を求めることは困難であり、児童相談所、警察等との連携が求められる。

- ・子どもに無関心な親と、逆に、熱心すぎて子どもが人の目を気にしすぎてしまうなど、対応の難しい家庭へどうかかわっていくか。園や学校では抱えきれない場合、関係機関との連携が重要である。

《保護者の学びの機会》

- ・保護者の研修会は生活習慣に関わることで記載されている。不適切な関わり方は、家庭や保育の中にもあるのでないか。命に係わるだけでなく、その前段階についても学ぶ機会が必要。
- ・児童養護施設や乳児院といった施設があることを知らない保育者がいる。虐待の実態も知らない。親の背景を読み取っていく機会が必要。園にとっても保護者にとっても学びの機会を設けることが求められる。
- ・研修に来ない保護者への関りとして、地域の力を借りたい。地域で子どもを見守るネットワークづくりが急務である。
- ・「育てられたように育つ」というが、親になった時に虐待しないように関わり、保護者を「受容」していくことが重要。

(3) 鳥取県幼児教育振興プログラムのサブタイトルについて

- ・「0歳」「乳幼児」という言葉を入れることで対象がはっきりとし、鳥取県が0歳からの教育を大切にしているという思いが伝わる。
 - ・「未来」という将来へつながる言葉を入れたい。
 - ・「学び」を勉強と捉えられないように、「学び」と「育ち」は、セットで使いたい。
 - ・「遊びの中の学び」「生きる力」が、プログラムの内容を示す大事な言葉だと感じる。
 - ・小学校でのプログラム活用率の低さを踏まえ、「小学校」という言葉を入れて小学校職員への意識付けを図りたい。
- 鳥取では、乳児を含めた教育を大切にしてきた。「0歳」「小学校」という言葉を使わなくても、鳥取らしさ、鳥取県が大切にしてきた思いが伝わるサブタイトルを考え、第4回で示したい。